

種種御振舞御書

御書全集 910頁 17行目〜911頁 1行目
編年体御書 947頁 17行目〜948頁 1行目

種々御振舞御書
仏滅後・二千二百二十余年が間・迦葉・阿難
等・馬鳴・竜樹等・南岳・天台等・妙楽・伝教
等だにも・いまだひろめ給わぬ法華経の肝心・
諸仏の眼目たる妙法蓮華経の五字・末法の始に
一閻浮提にひろまらせ給うべき瑞相に日蓮さき
がけしたり、わたうども二陣三陣つづきて迦
葉・阿難にも勝ぐれ天台・伝教にもこへよかし

語句

かしょう 阿難

釈尊の直弟子で、正法時代前半の伝法の始まりを担った。

まうりゆうじゆ 馬鳴・竜樹

正法時代後半の大乗経の論師。

なんがく 南岳・天台

像法時代前半の正師。6世紀の中国で法華経を宣揚した。

みょうらく 妙楽

像法時代後半の正師。天台宗の中興の祖として天台教学を整備した。

通解

釈尊の滅後、二千二百二十年余りの間、迦葉や阿難、馬鳴や竜樹、南岳や天台、妙楽や伝教といった人々でさえ、いまだ弘められなかつた、法華経の肝心であり諸仏の眼目である妙法蓮華経の五字が、末法の始めに全世界に広まることを示す瑞相（兆し）として、日蓮が先駆したのである。わが一門の者たちは、二陣、三陣と続いて、迦葉や阿難にも勝り、天台や伝教をも超えなさい。

伝教

像法時代の正師。諱は最澄。日本で天台の教えを弘めた。

一閻浮提

私たちが住む世界全体。

わたうども

和 党 共
同じ考えを持つ仲間、同志、一門のこと。